

人物	頁	行	初版	第2版
織田信長	14	16	(「武家雲箋」)。30日に	(「武家雲箋」。一説には若狭成願寺に泊まったとする(「瀬尾旧記」)。近江国保坂から朽木街道に入り、慕谷を通った(「長谷川家先祖書」)。30日に
織田信長	16	8	採らない。	採らない。8月12日岐阜在(「旁求茶会記」)。
織田信長	16	15	9月1日志村城を攻める。	9月1日志村城を攻め、「ひしころし」にする(「和田頼二氏所蔵文書」)。
織田信長	20	16	(『公記』)。23日	(『公記』)。9日上洛ともいう(『お湯殿』)。23日
織田信長	20	17	12月8日	12月7日在京、8日
織田信長	21	27	26日と思われる。閏11月	26日と思われる。また、13日に帰国した可能性もある(「賀茂別雷神社文書」)。閏11月
織田信長	21	29	11月25日	11月13日ないし25日
織田信長	25	8	(『言経』7月2日条)	(『言継』7月2日条)
織田信長	28	9	長命寺若林坊に	長命寺善林坊に
織田信長	28	28	(「顕如上人文案」)	(「善勝寺文書」)
織田信長	28	31	(「顕如上人文案」)	(「妙慶寺旧蔵文書」)
織田信長	29	8	山崎に陣取る。その	山崎に陣取る。(『公記』)。10日高槻着(「黒田家譜」)。その
織田信長	36-37		典拠の追加	【古文書】「賀茂別雷神社文書」「善勝寺文書」「妙慶寺旧蔵文書」「和田頼二氏所蔵文書」
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	38	2-3	裏づける史料はない。	裏づける良質史料はない。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	39	25	『太閤』等以外に史料がなく	『太閤』等の二次史料以外に史料がなく
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	39	26-27	8月23日に……「合百石遣之候」「坪内文書」、	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	39	29-30	宛行っている。8月23日付書状移……しかし、11月2日付書状からすれば、秀吉は	宛行っている。これからすれば、秀吉は
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	43	3-4	3~4行目のあいだに挿入	8月23日に美濃松倉城主坪内利定に対して100石宛行っている(同日付坪内利定宛秀吉書状写「合百石遣之候」「坪内文書」)。この書状写は元亀年間のものであると思われるが、主君織田信長による知行宛行状を奉ずる文言がなく、石高表記である点にやや疑問が残る。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	43	25	「去六日鎌刃二浅井相働候処、	「去六日鎌刃へ浅井相働候口、
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	43	26	浦八幡迄間打捨、不知具数候、八幡表二て敵返申候処を待合、三度迄詮議口追崩(以下略)]]市立長浜城	浦八幡迄之間打捨、不知其数候、八幡表二て敵返申候処を、都合三度迄口追崩(以下略)]]市立長浜城

人物	頁	行	初版	第2版
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	43	27	博物館所蔵文書)。	博物館所蔵文書)。7月に上洛を予定する(6月13日付幡枝郷他宛木下秀吉書状「我等来月可罷土候。「座田文書」)。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	44	27-28	15日京都を出発し、……境目へ進む。	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	44	32	9月26日	9月7日、近日上洛予定とする(同日付小早川隆景宛羽柴秀吉等連署状「近日可為上洛候」『小早川』)。しかし、9日・19日・21日は在越前か(同日付「宝慶寺文書」「滝谷寺文書」『大徳寺』)。26日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	45	8	根来着(10月20日付	根来着、21日高屋城を攻撃する(10月20日付
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	45	9	著陣候」市島謙吉氏	著陣候、然者明日廿一日至高屋表推詰相働候」市島謙吉氏
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	45	12	8月7日から……(『信長大名』)。	7月26日から……(「市立長浜城歴史博物館所蔵文書」)。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	45	17	(『言経』)。3月27日	(『言経』)。9日、安土着(同日付徳雲軒宛羽柴秀吉書状「今日安土へ相越候」井原文書)。3月27日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	45	20-21	7月15日京都を出発し、……「田中文書」)。	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	46	5	7月21日頃但馬を出発し、因幡国鳥取方面へ侵攻。	6月18日、三木城を包囲。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	46	9	英賀寺内を攻め、姫路に帰陣。	英賀寺内を攻める。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	46	10	伯耆国境へ出陣。	伯耆国境へ出陣。7月15日京都を出発し、20日頃西国境目へ進む。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	46	29-30	3月6日……(「阿波国古文書」)、22日在国	3月6日……(「阿波国古文書」)、7日姫路到着(「同月七日、秀吉至于播州国衙布陣」『播州御征伐之事』)。22日在国
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	6	(『公記』)。14日	(『公記』)。11日郡山に居陣(同日付小寺高友宛羽柴秀吉書状写「拙者至郡山令居陣候」黒田家譜)。14日

人物	頁	行	初版	第2版
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	8-9	天正7年(1579) 3月5日……「大阪城天守閣所蔵文書」。26日	天正7年(1579) 正月19日頃、敵兵の首を三木城前で獄門に懸ける(同日付赤松則房宛羽柴秀吉書状「首持被越候間、即別所城前二獄門相懸候」『武家事紀』)。3月26日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	10-11	5月22日頃播磨丹生寺城郭在(同日付	5月22日頃播磨丹生寺城郭を攻める(同日付
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	12	攻略する(『公記』)。	攻略する(『公記』)。6月18日、三木城を包囲する(同日付一牛斎宛羽柴秀吉書状「三木取出共数ヶ所申付候」『思文閣古書』218)。28日頃、淡河城を攻略する(「歳田神社文書」)。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	13-14	7月21日……「蜂須賀文書写」。	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	16	帰国する。10日……勝利する。10月晦日	帰国する(以上『公記』)。10日……勝利する(9月12日付滝川忠征宛羽柴秀吉書状「於此表一昨日合戦之事」『福岡市博物館所蔵文書』。10月7日、三木城攻撃のため付城を築く(「同十月七日、又被寄付城」『播州御征討之事』)。晦日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	17	(以上『公記』)。	(『公記』)。11月23日、三木城下を攻撃(同日付一牛(斎脱力)宛羽柴秀吉書状「三木町際へ押詰候」『池田文書』)。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	25	紀伊続風土記	紀伊国古文書
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	27	荘賀	英賀
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	28-29	紀伊続風土記	紀伊国古文書
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	30	紀伊続風土記	紀伊国古文書
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	30-31	ついで……帰陣する。	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	33	紀伊続風土記	紀伊国古文書
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	47	35	(『公記』)。7月21日	(『公記』)。13日に姫路に帰陣する(6月19日付長曾我部元親宛羽柴秀吉書状写「紀伊国古文書」)。7月12日安土在(同日付野瀬太郎左衛門宛羽柴秀吉知行宛行状「市長浜城歴史博物館所蔵文書」)。21日播磨国着陣

人物	頁	行	初版	第2版
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	1	羽柴秀吉書状「明日……」	羽柴秀吉書状「今日」
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	3-4	7月12日安土在(同日野瀬太郎左衛門宛羽柴秀吉知行宛行状「市立長浜城歴史博物館所蔵文書」)。	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	4	蔵文書)。12月2日	蔵文書)。15日京都を出発し、20日頃西国境目へ進む(7月17日付蒔田左衛門尉宛羽柴秀吉書状「一昨日十五出京候、廿日時分其地へ可相越候」田中文書)。12月2日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	9	新春早々の出馬を予定するが	新春早々の信長出馬以前の出陣を予定するが
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	10	出馬は	出陣は
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	10-11	2月6日……『黒田』)	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	17	(「宗及自会記」)。19日	(「宗及自会記」)。17日前後数日、堺の今井宗及邸に逗留する(同日付今井宗久宛羽柴秀吉書状「今度者令入津、数日逗留」大阪城天守閣所蔵文書)。19日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	19	『石見吉川』)。6月12日、	『石見吉川』)。24日姫路在(同日付大御乳人宛秀吉書状「ひめちよりちくせん」『黄薇古簡集』)。6月12日、
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	19-21	15日に……相究」亀井文書)、	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	22	『石見吉川』)。27日に	『石見吉川』)。25日に西国出馬を予定するが(5月29日付亀井茲矩宛羽柴秀吉書状「六月廿五日西表令出馬候」亀井文書)、27日に
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	26	『石見吉川』)。20日から兵糧米を支給し、	『石見吉川』)。15日から砦14、5を築く(7月14日付宇喜多直家宛羽柴秀吉書状写「明日十五日より取出数十四五丈夫二申付候」『閩閩録』)。25日から兵糧米を支給し、
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	27-28	(7月22日付……25日からともいう	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	28	青池孫次郎	青地孫次郎

人物	頁	行	初版	第2版
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	28-29	なおこの2通の関係は要検討である。	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	48	34	「皆川文書」	「古文書」
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	1	□□	奈佐
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	7-9	桑山修理進	桑山重清
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	10	「洲本迄押詰候(中略)」	削除
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	17	安土へ行き、播磨へ帰国する。	安土へ行き(『公記』)、2月6日頃姫路城帰城を予定している(同日付黒田孝高宛羽柴秀吉書状「近日可令帰城候」『黒田』)。
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	18	3月17日	3月15日、備中国冠山城を攻めたとする史料もあるが(「天正十年三月十五日、取向備中国、押寄冠城」『惟任退治記』)、これは一ヶ月早い。17日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	27	「村上文書」	「屋代島村上文書」
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	27	中川清秀宛	中川秀政宛
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	31-32	溝江大允宛……松田竜次郎	溝江長澄宛……松田孫次郎
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	33	鴨城	賀茂城
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	34	同時に	同昨日
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	49	35	「岡山市郡 総社所蔵文書」	「郡総社宮文書」

人物	頁	行	初版	第2版
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	50	2・3	溝江大炊允宛	溝江長澄宛
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	50		典拠の追加	【古文書】『大徳寺』『池田文書』『井原文書』『紀伊国古文書』『黒田家譜』『古文書』『古文書纂』『歳田神社文書』『座田文書』『滝谷寺文書』『福岡市博物館所蔵文書』『宝慶寺文書』 【編纂物】『惟任退治記』『播州御征伐之事』
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	50		「岡山市郡 総社所蔵文書」	「群総社宮文書」
豊臣秀吉(天正10年6月2日以前)	50		「紀伊続風土記」	削除
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	51	8	ないようである。	ないようである。さらに天正6年末には藤吉郎、天正9年5月以降筑前守を使用した。
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	53	28	28日に金沢城に入り、	28日に加賀金沢城に入り、
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	54	16	(中略)田引退	(中略)柴田引退
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	55	25	戻る。10日	戻る。4月10日
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	63	12	26日……ここより還御。	26日……ここより「還御」。
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	74-75	35-1	28清洲発	28日清洲発
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	79	10	閏7月伏見大地震	閏7月13日伏見大地震
豊臣秀吉(天正10年6月以降)	83		典拠の追加	【参考文献】播磨良紀「羽柴秀吉文書の年次比定について」(『織豊期研究』16 2014年)
豊臣秀次	84	21-22	10歳未満のことについて穿鑿することに	10歳未満のことについて検討することに

人物	頁	行	初版	第2版
豊臣秀次	85	23	(「柴田退治記」)。	(「柴田退治記」)。なお、秀次は摂津の「警固」にかかり、河辺郡・武庫郡内に所領を晩年まで持っていた。
豊臣秀次	85	23	晩年まで持っていた。	晩年まで持っていたか、あるいは蔵入地を預かっていたと思われる。川辺郡米谷(まいたに)村の清澄寺は、文禄4年7月13日、秀吉の奉行から糺明を免除されていることから米谷村をふくむ当該地域が秀次の所領であったことを窺わせる(「清澄寺」)。
豊臣秀次	86	33	八幡山へ封ぜられた……。9月頃には城普請を	八幡へ封ぜられた……。9月頃には鶴翼山で城普請を
豊臣秀次	86	34	「京大文学部博物館所蔵文書」	「京大総合博物館所蔵文書」
豊臣秀次	87	3	免除している(永正寺文書)。	免除している(永正寺文書)。12月21日より上坂した小早川隆景らを饗応するために大坂城へ詰めた(高橋義彦氏所蔵文書)。
豊臣秀次	87	8	(『多聞院』)。	(『多聞院』)。5月5日、賀茂の競馬を見物す(「賀茂別雷神社文書」)。この月、中将へ昇進した(「芦浦観音寺文書」)。
豊臣秀次	89	2	(『武徳』)。10月17日、	(『武徳』)。3月23日、禁裏普請の奉行となる(『華頂要略』)。10月17日、
豊臣秀次	89	10	一気に尾張と北伊勢を領する	一気に尾張を領する
豊臣秀次	90	8	するために再び家康ともども出陣している。	するために再び出陣した。
豊臣秀次	92	31	(「竹中輝男氏所蔵文書」)。	(「竹中輝男氏所蔵文書」)。同23日、仙洞御所での御祈修を聴聞する(『華頂要略』)。
豊臣秀次	92	35	ようである。	ようである。11月中旬には帰洛した。
豊臣秀次	93	1-2	12月8日、改元の陣儀があり文禄と改元された。秀次も参画している(北島万次「豊臣政権論」『講座日本近世史』1)。	12月8日、改元の陣儀があり秀次も参画し文禄と改元された(「改元勅答部類」)。
豊臣秀次	93	12	「上賀茂神社文書」	「賀茂別雷神社文書」
豊臣秀次	93	17	続けている。7月	続けている。6月2日、某社で張行の鞠の会で自らも加わった(「大津平野神社文書」)。7月
豊臣秀次	94	14	同16・20日の両日伏見へ、同25日より	同16日伏見へ、20日には奈良へ、同25日より
豊臣秀次	95	9	認められない。5月4日、	認められない。2月29日、「関白様今日も猪狩」とあり洛中近辺で狩猟をしていたようである(『北野社家』)。5月4日、
豊臣秀次	95		典拠の追加	藤田恒春『豊臣秀次』(吉川弘文館 2015年)
徳川家康	96	11	天正10年の武田家滅亡	天正10年(1582)の武田家滅亡
徳川家康	97	20	基本的には新府城を	基本的には甲府か新府城を
徳川家康	97	28	同日付有泉信閑宛	同日付有泉信閑等宛
徳川家康	97	29	9日甲府在	9日甲府着
徳川家康	98	19	『家忠』11日条……一昨(マ)日九日二浜松へ	『家忠』12日条……一昨(マ)日九日二浜松へ
徳川家康	99	9	7日岡崎在	7日吉田→岡崎
徳川家康	99	10	『家康』。19日	『家康』。18日清洲在(『家忠』)。19日
徳川家康	99	19	秀吉書状	秀吉書状写
徳川家康	100	18	1月2日	1月1・2日



人物	頁	行	初版	第2版
徳川家康	100	25	懇望ハ達而	懇望ハ、家康達而
徳川家康	100	26	富田平右衛門尉、津田四郎左衛門尉兩人	富田平右衛門、津田四郎左衛門兩人
徳川家康	100	28	13・17日駿府在	13・19日駿府在
徳川家康	100	29	抑御身身上之義	抑御身上之義
徳川家康	100	34	11月15日	11月1日浜松在、15日
徳川家康	100	34-35	16日岡崎在	16日吉田→岡崎
徳川家康	101	11	9月7日、	9月11日、
徳川家康	101	21	29日岡崎発	29日岡崎→浜松
徳川家康	101	22	家康は其日浜松へ帰城ニ云々	家康ハ其日浜松帰城云々
徳川家康	101	27-28	22日浜松……申し候)。	削除
徳川家康	101	29	(『家忠』6日条)。	(『家忠』6日条「本平八清須迄御女房たち送り候て、昨日浜松へ被返候由吉田より申来候」)
徳川家康	102	13	京都在カ(「宇野」「三州徳川上洛」)	京都在(「宇野」「家康上洛」)
徳川家康	103	1	13日田原在	13日田原着
徳川家康	103	1-2	14日→岡崎	14日田原→岡崎
徳川家康	104	28	19・26・30日駿府在	19日駿府在
徳川家康	104	28	(『家忠』)。28日→興津	(『家忠』28日条)。28日大宮→興津
徳川家康	104	34	29日吉良在カ(『家忠』「京都より富田平右衛門、津田四郎左衛門為御使被下候」)。	削除
徳川家康	105	19	1月2日	1月1・2日
徳川家康	105	33	9月9日……つかハシ候)。	削除
徳川家康	107	20-21	『家康』)。7月23日名護屋在(同日付不動院宛家康黒印状写『家康』)。27日名護屋在(『鹿苑』)。8月15日	『家康』)。6日名護屋在(同日付某宛西笑承兌書状写『鹿苑』三十二文禄二年裏文書)。7月23日名護屋在(同日付不動院宛家康書状写『家康』)。8月15日
徳川家康	108	5	龍国寺	龍園寺
徳川家康	108	9-10	飛脚候、	飛脚越候、
徳川家康	108	14	暇乞いに罷向了	イマコイニ罷向了
徳川家康	108	17	罷向処ニ	罷向之処ニ
徳川家康	108	20	江戸垂相へ……禁中御能	江戸黄門へ……禁裏御能
徳川家康	108	24	同日付徳川秀忠宛	同日付某宛
徳川家康	109	10	茶湯へ他行成、云々……江戸垂相へ罷向……相国寺兌長老	茶湯へ他行成云々……江戸垂相罷向……相国寺承兌長老
徳川家康	109	16-17	2日京都在(『秀忠』)。	削除
徳川家康	109	18	昨日より予可同道之間、	昨日ヨリ予可同道之有之間、
徳川家康	109	21	巳刻罷向了	巳刻ニ罷向了



人物	頁	行	初版	第2版
徳川家康	109	22	御出之間可参……罷向」	御出之間、可参……罷向了」
徳川家康	109	23	罷向」)。18日	罷向了」)。18日
徳川家康	109	25	早御出也云」)	早御出也云々」)
徳川家康	109	27	早朝二罷向」)	早朝二罷向了」)
徳川家康	109	29	(『家忠』「大納	(『家忠』19日条「大納
徳川家康	109	34	御出之間可	御出之間、可
徳川家康	109	35	東福寺正統院	東福寺内正統院
徳川家康	110	1	早朝に罷向」	早朝に罷向了」
徳川家康	110	12	17日京都在	17・18・19日京都在
徳川家康	110	15	御渡也、云々	御渡也云々
徳川家康	111	1	3月7・8日	3月8日
徳川家康	111	4	江戸内府早朝ヨリ	江戸垂相早朝ヨリ
徳川家康	111	18	(『言経』)。22日	(『言経』)。18日(京都→伏見)(『言経』17日条)。22日
徳川家康	112	8	明日辺見舞	明日辺可見舞
徳川家康	112	18	昨夜内府陣	昨夜 内府陣
徳川家康	112	19	御車二太閤	御車二 太閤
徳川家康	112	21-22	イへ共謡稽古	イへ共、謡稽古
徳川家康	112	23	以下伏見へ還御了、	以下、伏見へ還御了、
徳川家康	112	24	大名衆不殘御礼有之	大名不殘御礼有之
徳川家康	112	29	参之处登城也云々」)。	参之处二登城也云々」)。
徳川家康	112	34	崩了大名衆	崩了、大名衆
徳川家康	113	27	『言経』「江戸内府へ	『言経』「次伏見へ同道発足、(中略)江戸内府へ
徳川家康	114	6	6月9・16日	6月8・9・16日
徳川家康	114	7	(『言経』)。27日伏見在	(『言経』)。13日伏見在(『言経』12日条「明日 大閤内府宅へ御成二付而」)。27日伏見在
徳川家康	115	9	(『言経』)。	(『言経』17日条)。
徳川家康	115	14	後刻内府ハ	後刻 内府ハ
徳川家康	115	23	次江戸内府	次江内府
徳川家康	115	28	1日伏見在	1・3日伏見在
徳川家康	115	32	午刻自分申来了、	午刻時分申来了、
徳川家康	115	34	次、帝王	次 帝王
徳川家康	116	4	徳善院シテ	徳善院■〈合字のシテ〉
徳川家康	116	8	、罷向」)。	、罷向了」)。

人物	頁	行	初版	第2版
徳川家康	116	12	(『言経』伏見在「伏見へ発足、	(『言経』「伏見へ発足、
徳川家康	116	13	罷向処二細川幽斎へ	罷向処二、細川幽斎へ
徳川家康	116	18	衣文之事被申間如此)。	衣文之事被申間、如此)。
徳川家康	117	4	向島へ暇に移徒、	向島へ仮に移徒、
徳川家康	117	7	内府へ罷向、	内府へ罷向了、
徳川家康	117	8	即対顔)。	即対顔了)。
徳川家康	117	13-14	24日大坂→伏見(『鹿苑』……(中略)内府様	26日伏見在(『鹿苑』……(中略)其次赴于木工頭殿、内府様
徳川家康	117	18	御下向)。	御下向徳僧亦北之門迄御迎トシテ出頭)。
徳川家康	117	23	10日1日大坂在	10月1日大坂在
徳川家康	117	24	(『舜旧』)。22・29日……(『言経』)。17日大坂在	(『舜旧』)。11月17日大坂在
徳川家康	117	25	(『鹿苑』21日条)。12月12・17日在大坂(『言経』)。20・21日	(『鹿苑』21日条)。12月20・21日
徳川家康	117	26	28日大坂在(『言経』)。	削除
徳川家康	118	9	1月2日大坂在(『言経』)。9日	1月9日
徳川家康	118	11-12	28日……(『言経』)。	削除
徳川家康	118	18-19	5月8・14日大坂在(『言経』)。17日大坂在	5月17日大坂在
徳川家康	118	20	悉顔口(り)也、	悉顔■(利+頁)也、
徳川家康	118	21	(『鹿苑』「昨日十九日、	(『鹿苑』20日条「昨日十九日、
徳川家康	118	23	13日大坂在(『言経』)。	削除
徳川家康	118	24	17日伏見在	17日京都在
徳川家康	118	32	家康書状『家康』)。	家康書状写『家康』)。
徳川家康	118	33	本多正信	本田正純
徳川家康	118	35	稲葉貞通	稲葉道通
徳川家康	119	2	家康書状『家康』)。……清洲在(同日付片倉	家康書状写『家康』)。……清洲在(日付欠片倉
徳川家康	119	3	『政宗2』)。	『政宗2』1077号)。
徳川家康	119	4	家康書状『家康』)。19日草津	家康書状写『家康』)。19日草津
徳川家康	119	10	12月8・13日	12月13日
徳川家康	119	24	1月2日大坂在(『言経』)。14日大坂在	1月14日大坂在
徳川家康	119	35	7月4・14・22日	7月4・13・22日
徳川家康	120	4-5	5・6日伏見在(『鹿苑』6日条)。7日	5日伏見在(『鹿苑』6日条)。6日伏見→大坂(『鹿苑』「則今日内府君為御暇乞大坂工御下向ト云々)。7日
徳川家康	120	23-24	上洛之儀候条(『家康』)。……11日草津在(『鹿苑』「内府	上洛之儀候条(中略)到今日二無御上候』『家康』)。……10日草津在(『鹿苑』11日条「内府
徳川家康	120	25	13日大津在(『言経』	13日大津付近在(『言経』

人物	頁	行	初版	第2版
徳川家康	121	14	少々不例なり」。	少々不例也」。
徳川家康	122	2	次申令同道……(中略)將軍之	次申刻令同道……(中略)東鏡被読了、將軍之
徳川家康	122	5	則罷向、七時時分二	則罷向了、七時分二
徳川家康	122	7	13日伏見在(『鹿苑』)。	13日伏見在(『鹿苑』14日条)。
徳川家康	122	9	御入洛二条堀川、間、令、四条同道了、	御入洛間、令、四同道罷向了、
徳川家康	122	12	午刻出御」。	午刻二出御」。
徳川家康	122	17	4・6～11・13日京都在	4・6～8・10・11・13日京都在
徳川家康	122	19-20	23日伏見在(『鹿苑』)。	削除
徳川家康	124	4	奏者衆披露、	奏者番衆披露、
徳川家康	124	27	訪れ、12日に	訪れ、11日には義直・頼宣とともに参内し、12日に
徳川家康	125	8	9～11日京都在(『言経』)。12日京都	9・10日京都在(『言経』)。11日京都在(『言経』「大御所、若公御兩人御参口内了」)。12日京都
徳川家康	125	11	(『当代』)。21日江戸	(『当代』)。11日江戸在(同日付石川義宗宛伊達政宗書状『政宗2』)。21日江戸
徳川家康	125	25	(『当代』)。25日	(『当代』「二月十三日より江戸本丸と西の丸の間にて、観世今春勧進能在之、両御所棧敷あり」)。25日
徳川家康	125	30	8月15日駿府在(『当代』)。	削除
徳川家康	125	33	11月1日浦和・川越・忍在(『当代』	11月1日江戸→浦和・川越・忍(『当代』
徳川家康	125	33-34	11日～『政宗2』)。	削除
徳川家康	126	19	20～23日	20・23日
徳川家康	127	7	7・28日	11・28日
徳川家康	127	29	『当代』「大御所	『当代』「十三日、大御所
徳川家康	128	5	27・29日駿府在	29日駿府在
徳川家康	128	6	13日駿府在(『本光』)。	削除
徳川家康	129	34	26日戸田在(『言経』)。	26日江戸→戸田在(『駿府』)。
徳川家康	130	3-4	今晚着于神奈川	今晚御着于神奈川
徳川家康	131	3	「両伝奏ヨリ	「両伝 奏ヨリ
徳川家康	131	9	14・18・23・25日	14・18・25日
徳川家康	131	17	18・20日駿府在	18・20・26日駿府在
徳川家康	131	28	未刻還御と云々」。	未刻還御云々」。
徳川家康	131	30	2月2日駿府在	2月5日駿府在
徳川家康	131	35	8月1・8日	8月1・6日
徳川家康	132	16	稲毛(『駿府』	稲毛(『当代』)
徳川家康	133	6	「巳刻御動座、	「巳刻江戸御動座、

人物	頁	行	初版	第2版
徳川家康	133	11	三島(『駿府』……三島に着給)。	三島(『当代』……三島に着給ふ)。
徳川家康	133	24	上書付、件鐘銘	上書付無相違、件鐘銘
徳川家康	133	27	護持堂、	御持堂、
徳川家康	133	30	28日駿府在	28・30日駿府在
徳川家康	134	9	29日京都在(『言経』)。	29日京都在(『駿府』)。
徳川家康	134	10	太刀公卿ハ披露、	太刀公卿ハ披、
徳川家康	134	11	12日京都在(『言経』)	12日京都在(『当代』)
徳川家康	134	15	12月2日大坂城近辺在(『駿府』「則從此処	12月2日茶臼山→大坂城近辺(『駿府』「大御所渡茶磨山、(中略)則從此処
徳川家康	135	12-13	2月7日中泉在	2月1・2日中泉在(『駿府』)。7日中泉在
徳川家康	135	13	御対面)」。10・11日	御対面)」。9日中泉在、10・11日
徳川家康	136	8	29・30日(『言緒』)。	29日(『言緒』)。
徳川家康	136	10	7・8日水口在	6・8日水口在
徳川家康	136	26	17日東金着	17日東金在
徳川家康	137	16-17	不可然間、……被仰出候而、相止候、……今日吉日に候間、	不可然候間、……被 仰出候而、相止申候、……今日十三日吉日に候間、
徳川家康	137	29-30	承了)」。19・21～3・26日	承了)」。18・19・21～3・26日
徳川家康	138		典拠の追加	「宇野」
柴田勝家	144	6	いずれも確かな説とは言い難い。	いずれも確かな根拠をもつ説とは言い難い。
柴田勝家	145	2-3	言を重ねると、	付言すると、
柴田勝家	149	34	対面した後(以上「尋憲」)、17日には	対面し(以上「尋憲」)、その後、17日には
柴田勝家	152	20	言を重ねると、	付言すると、
柴田勝家	153	17	『公記』)。	『公記』)」。その後、勝家らは越中黒部を通過し、6月5日には越後国境に近い越中境城(宮崎城)を占領した(高岡2015)。
柴田勝家	153	18	6月2日、……横死した。	以上のように、勝家らは上杉勢を追い詰めつつあったが、事態は急変する。6月2日、… …横死したのである。
柴田勝家	153	19	国許へ撤退する。6月6日の出来事であった(……補遺389)。	国許へ撤退した。6月6日のことであり(……補遺389)、勝家の北庄帰城は同月9日のこと である(高岡2015)。
柴田勝家	154	6	尾崎城	大岩山城
柴田勝家	154		典拠の追加	【参考文献】高岡徹「本能寺の変前後の越中松倉・魚津城」(『富山史壇』176 2015年)
丹羽長秀	157	8	永禄8年7月頃である(横山1985)。	永禄8年2月である(横山2015)。
丹羽長秀	164	32	一番手の軍勢を指揮し馬場を行進した。	一番手を務め、軍勢を指揮して馬場を行進した。
丹羽長秀	165	27	四国出陣の準備を整えた	四国出陣の準備をととのえた
丹羽長秀	166	15	に入京、それ以降	に入京し、それ以降
丹羽長秀	169		典拠の追加	【参考文献】横山住雄『織田信長の尾張時代』(戎光祥出版 2012年)

人物	頁	行	初版	第2版
明智光秀	170	20-21	20～21行目のあいだに挿入	※村井祐樹「幻の信長上洛作戦」により、「米田文書」に残された『針葉方』奥書に、「右一部、明智十兵衛尉高嶋田中籠城之時口伝也」との記述があることが確認された。同書は光秀の口伝を筆録した沼田勘解由左衛門から、永禄9年10月20日に米田貞能が近江坂本で写したものであり、ここに光秀の史料上の初見が更新された。 ここからいえるのは①光秀は医学の知識を有していたこと、②近江湖西にすでに地理観を有していたことの2点である。また「高嶋田中籠城之時」として可能性が高いのは永禄8年5月9日の義輝暗殺直後だろうが、この点については後考を期したい。
明智光秀	182		典拠の追加	【参考文献】村井祐樹「幻の信長上洛作戦」(『古文書研究』78 2014年)
細川藤孝	184	33-34	33行目のあとに追加	※ 永禄9年11月に細川藤孝が米田貞能と美濃国にむかった事が、『独見集』奥書(「米田文書」)に見える。
細川藤孝	188	7-8	6～7行目のあいだに挿入	※ 「武田方秋山信友攻め」(美濃国岩村城)に関して、金子拓氏は同攻城戦が織田信忠配下を中心に進められたために、藤孝参加の可能性は低く、岐阜の信長への挨拶にすぎないとしている(金子拓「長岡藤孝と織田信長」)
細川藤孝	199		典拠の追加	【参考文献】金子拓「長岡藤孝と織田信長」(『図録』信長からの手紙』2014年)
前田利家	204	22	同城攻めの付城天神山城の	城攻めのための付城天神山城の
前田利家	205	13	小丸山城、	小丸山城で、

人物	頁	行	初版	第2版
前田利家	211	3-21	利家らは信濃を経て……開城を14日の出来事と記す。	<p>利家らは信濃から碓氷峠を経て上野へ侵攻し、同国松井田の上之山もしくは同国狩宿に着陣した。その時期は4月上旬頃とみられる。同陣していた信濃の真田昌幸が同月7日付で出した書状に「此表之儀、上野國中悉放火仕、其上松井田之地、根小屋撃砕、致詰陣、仕寄申付候」と記した点(「長国寺殿御事蹟稿」、同月11日に氏政の弟北条氏邦が出した書状に「臼井(碓氷峠)越山之敵ハ松井田上之山ニ陣取、又かり(狩)宿近辺へ打散而、放火働一理二候」と記されている点は「片野文書」、そうした理解を生じさせるものである。</p> <p>利家・利長父子や真田、そして上杉景勝が最初に攻撃した北条方の城郭が、北条氏の重臣大道寺政繁の籠もる松井田城であった(『真田』)。同城は4月20日に降伏している。そして2日後の22日、利家は大道寺と伊達氏の使者守柏斎意成を連れ、小田原城を包囲する秀吉の許へ赴いた。拝謁が無事に済むと、4月27日に小田原を発ち、5月1日、松井田城へ帰還している(『伊達』『上越別2』『増訂加能』)。なお、松井田から小田原へ向かう途中、大道寺直英(政繁の養子)が守る武蔵川越城を開城させ同城を請け取ったとする見解があること(黒田2013)を付け加えておく。</p> <p>※ 松井田城開城後、北関東の北条方の城郭が次々に開城した。例えば4月24日頃までには川越城のほか上野前橋城・同国箕輪城が、同月29日までに上野金山城・同国館林城が、6月2日までに上野桐生城が開城している(黒田2013)、利家の軍勢はそのうちの7・8城を占領した。そのなかには金山城・桐生城が含まれている(「山中山城守文書」)。</p> <p>6月3日、利家は、武蔵松山城(同国国衆上田憲定の本拠)と同国鉢形城(北条氏邦の本拠)の攻撃を図り、松山城の西に当たる武蔵石橋村の上之野の古城には、利家の陣城が構えられていたが(『上越別2』『七尾』)、同月上旬、彼は戦列から一旦離れて再び小田原へ向かい、7日まで小田原に居た。5日、伊達氏の当主政宗が小田原に到着し、浅野とともに彼の「指南」を務めるよう命じられたため(『政宗1』)ではないか。</p> <p>6月8日、利家は小田原を発ち武蔵忍城(武蔵国衆成田氏長の本拠)攻めに取りかかった。これは利家と上杉勢に同城攻撃が命じられたためである(「小幡文書」。しかし同城攻めに参戦したのは、わずか数日間であつたらしく、忍を発って鉢形城攻めに加わったようだ(黒田2013)。同城を守る北条勢が利家らに降るのは6月14日であつた(「徴古雑抄」)。付言すると、鉢形城陥落の頃には松山城なども開城したと見られる(黒田2013)。</p>
前田利家	212	6	滞在は短かつたらしく、	滞在期間は短く、
前田利家	215	2	捕えられ、秀吉の命により高野山で自刃した。	捕えられ、高野山へ追放された後、自刃した。
前田利家	217	23	言を重ねると、	付言すると、
前田利家	218		典拠の追加	<p>【古文書】「小幡文書」「片野文書」(『戦国遺文 後北条氏編』第5巻に収録)「徴古雑抄」(『新横須賀市史資料編』古代・中世Ⅱに収録)「山中山城守文書」(天理大学附属天理図書館所蔵)</p> <p>【参考文献】黒田基樹『敗者の日本史 小田原合戦と北条氏』(吉川弘文館 2013年)</p>
前田利家	218		典拠の削除	<p>【古文書】「町田愛二氏所蔵文書」(岩澤『前田利家』に収録)</p> <p>【編纂物等】「北条五代記」(『北条史料集』に収録)</p>



人物	頁	行	初版	第2版
毛利輝元(慶長5年9月14日以前)	232	30-31	2月14日にも在伏見が確認される	2月14日には、大坂に下ってきた西洞院時慶と面会している
毛利輝元(慶長5年9月14日以前)	232	35	(『北野社家』)。『お湯殿』6月8日条	(『北野社家』)。また、同日に本願寺准如を訪ねている(『鹿苑』)。『お湯殿』6月8日条
上杉景勝	255	29	登場する。それゆえ、彼は	登場する。彼は
上杉景勝	257	22	越中境まで	越中境(宮崎)まで
上杉景勝	259	2	延期している。	延期している。その後、8月にも北信濃へ出陣した。
上杉景勝	259	3	8月、北信濃へ出陣した。同月28日、	8月28日、
上杉景勝	259	6	越後へ帰国している	越後へ帰国した
上杉景勝	259	19	言を重ねると、	付言すると、
上杉景勝	259	21	近江へ領土を拡大したのであった。	近江へ領土を上げた。
上杉景勝	260	13	宿所は本圀寺、24日まで	宿所は本圀寺で、24日まで
上杉景勝	262	8-21	「略記」は碓氷峠を越え……同城を陥落させている(『上越別2』『増訂加能』)。	「略記」は、碓氷峠を越え上野へ侵入したと記す。越後から北信濃へ入った後、碓氷峠を経て上野へ向かったのである。その時期は4月上旬頃であろう。同月7日付の真田昌幸書状写に「此表之儀、上野国中悉放火仕、其上松井田之地、根小屋撃砕、致詰陣、仕寄申付候」と記されたことは(「長国寺殿御事蹟稿」)、そうした理解を生じさせる。なお、同月11日に氏政の弟北条氏邦が出した書状には「臼井(碓氷峠)越山之敵ハ松井田上之山二陣取、又かり(狩)宿近辺へ打散而、放火働一理二候」とあるので(「片野文書」)、景勝らが着陣したのは、上野松井田の上之山もしくは同国狩宿と見られる。 上野へ入国するや、北条氏の重臣大道寺政繁の籠もる松井田城を攻撃し(『真田』)、20日、大道寺を降伏させた(『伊達』)。付言すると、大道寺降伏後、北条方の城郭が次々に開城した(黒田2013)。 6月上旬、秀吉は武蔵の忍城(武蔵国衆成田氏長の本拠)攻めについて指示を出し、同城攻撃が利家と上杉勢に命じられたが(「小幡文書」)、上杉勢が忍城攻めに参戦したのは、わずか数日間であつたらしい(黒田2013)。 その後、景勝は利家とともに北条氏邦が守る武蔵鉢形城を攻撃し、6月14日に氏邦らを降して(「徴古雑抄」「略記」)、氏政の弟北条氏照の本拠武蔵八王子城に迫った。上杉勢・前田勢らの激しい攻撃により、同城が陥落したのは6月23日のことである(『上越別2』『増訂加能』)。
上杉景勝	262	24	同14日頃の出来事である(『朝野』)。	同14日の出来事である(「築田家文書」)。
上杉景勝	262	31	小林清治氏のごとく、9月	小林清治氏が指摘するように、9月
上杉景勝	271	7	9月晦日、イスパニアの……ビスカイノの米沢訪問を迎えている。	9月晦日は米沢に居たらしく、この日イスパニアの……ビスカイノが米沢を訪れた。
上杉景勝	272	23	和議が整い、	和議がととのい、
上杉景勝	273	18-19	4月17日に家康が死去している。	家康がこの世を去るのは4月17日のことである。



人物	頁	行	初版	第2版
上杉景勝	275		典拠の追加	【古文書】「小幡文書」「片野文書」(『戦国遺文 後北条氏編』第5巻に収録)「徴古雑抄」(『新横須賀市史資料編』古代・中世Ⅱに収録)「築田家文書」(『千葉県の歴史資料編』中世4に収録) 【参考文献】黒田基樹『敗者の日本史 小田原合戦と北条氏』(吉川弘文館 2013年)
上杉景勝	275		【古文書】「町田愛二氏所蔵文書」(『前田利家』に収録) 【編纂物等】「北条五代記」(『北条史料集』に収録)	削除
伊達政宗	277	4	襲名したものという。7年	襲名したものという。天正7年
伊達政宗	277	10	下四位下	従四位下
伊達政宗	277	11-12	従三位下権中納言	従三位権中納言
伊達政宗	278	9	5月中旬、	5月上旬、
伊達政宗	278	34	10日小浜城に	同夜小浜城に
伊達政宗	280	4	20日・21日	20日～22日
伊達政宗	280	30	「為御迎明日廿三日打立候」	「為御迎明日廿三打立候」
伊達政宗	282	1	対談シ玉ヒテ御登ナリ」	対談シ玉ヒテ御登リナリ」
伊達政宗	283	3	『政宗2』柴田郡四保二御寓『治家記録』、……森二御寓『治家記録』	『政宗2』「柴田郡四保二御寓」『治家記録』、……森二御寓『治家記録』
伊達政宗	283	4	じゅらくまで	じゅらくまで
伊達政宗	283	8	浦二着陣候『政宗2』)	浦二着陣候」『政宗2』)
伊達政宗	283	22	9月11日釜山浦発	9月12日釜山浦発
伊達政宗	283	23	9月22日付おちやこ宛書状	9月22日付おちやこ宛書状
伊達政宗	283	24	閏9月11日備後国井原着	閏9月11日備後井原着
伊達政宗	283	26	於伏見御茶被下『政宗2』	於伏見御茶被下」『政宗2』
伊達政宗	283	35	大閤様「明日伏見へ	「大閤様明日伏見へ
伊達政宗	284	17-18	唯今上洛申候『政宗』	唯今上洛申候」『政宗』
伊達政宗	284	22	閏7月24日京着	閏7月24日京都着
伊達政宗	284	26	御下向二付為供奉	御下向二付而為供奉
伊達政宗	285	23	9月2日仙台城に戻る	9月3日仙台城に戻る
伊達政宗	285	26	19日江戸発(『治家記録』)	19日江戸発、藤沢着(『治家記録』)
伊達政宗	286	1	6月上旬京都発、6月14日	5月29日京都発、6月14日
伊達政宗	286	2	今日御城へ可罷出候」	今日御城へ可罷出候へ共」
伊達政宗	286	6	11月11日在江戸(両御所様	11月11日在江戸(「両御所様
伊達政宗	286	14-15	14～15行目のあいだに挿入	※ 慶長13年冬に政宗は秀忠より松平名字を与えられ陸奥守に任じられたことにより慶長14年4月頃仙台発、江戸着、7月6日江戸発、仙台着(明石治郎「伊達政宗慶長十四年の参府」)。

人物	頁	行	初版	第2版
伊達政宗	286	15	慶長15年(1610) 1月16日在仙台	慶長15年(1610) 元日在仙台。1月16日在仙台
伊達政宗	286	16	6日江戸着(「四日拙宅へ	6日在江戸(「四日拙宅へ
伊達政宗	286	20	帰国時期は不詳。	削除
伊達政宗	286	22	秀忠に対面(「今月七日	秀忠に対面、11日江戸着(「今月七日
伊達政宗	286	23	直二夜通参『政宗2』)、そのご帰国。	直二夜通参(中略)今月十一日江戸へ可相着候『政宗2』)。その後帰国か。
伊達政宗	286	24	元日在仙台。	元日在仙台(『治家記録』)。
伊達政宗	286	33-34	八丁目駅着、	八丁目着、
伊達政宗	287	14	700余騎・人数	700余騎総人数
伊達政宗	290	7	12月17日越谷駅着	12月17日久喜発、越谷駅着
伊達政宗	290	16	13日久喜発、14日	13日久喜発、栗橋着、14日
伊達政宗	290	28	8日白河着、	8日白川(河)着、
伊達政宗	290	35	こののち帰国。	29日若林着。
伊達政宗	291	24	14日若林城	14日若林館
伊達政宗	291	30	61万5000石の領地判物を	61万5000石の領知判物を
伊達政宗	291	35	9日若林城	9日若林館
伊達政宗	292		典拠の追加	【著作】明石治郎「伊達政宗慶長十四年の参府——松平賜姓・陸奥守転任の時期の問題にからめて——」(『市史せんだい』17、2007年)
石田三成	293	18	九州平定に従い、戦後博多の復興につとめ、以後政権と	九州平定に従い、以後政権と
石田三成	296	28	長束正家……この間、	削除
石田三成	297	28	遣わされた(『鹿苑』)。	遣わされた(『鹿苑』)。13日、増田長盛と連署で本願寺坊官にあてて「条々」を発する(青木忠夫『本願寺教団の展開』)。
石田三成	303	24	(『相良』)。ちなみに、	(『相良』)。ここで明からの講和使節を迎える準備にあたる(「三溪園所蔵文書」。ちなみに、
石田三成	306	6	三成と上杉景勝が	三成と浅野長政が
石田三成	306	7	(『史料綜覧』)。	(『福井中・近世4』)。
石田三成	306	18	11日大垣城に入る。	10日大垣城に入る。
石田三成	308		典拠の追加	【編纂物等】『福井中・近世4』 【参考文献】青木忠夫『本願寺教団の展開』(法藏館 2003年)
浅野長政	309	33-34	秀吉判物「太祖	秀吉判物写「太祖
浅野長政	310	10	1月2日、	1月11日、
浅野長政	311	6	陣を構えた(『石見吉川』)。	陣を構えた(山県長茂覚書『石見吉川』)。
浅野長政	311	15	音物 いんもつ(ルビ)	音物
浅野長政	311	18	浅野弥兵衛、	浅野弥兵衛尉、
浅野長政	311	21	浅野弥兵衛相拘ヘルノ処、	浅野弥兵衛相拘之処、

人物	頁	行	初版	第2版
浅野長政	311	22	山岡城へコレヲ移シ」……5月26日条)	山岡城へ移之」……5月25日条)
浅野長政	312	8	5月3日佐和山で斬られ、	5月6日頃佐和山で斬られ、
浅野長政	312	10	田中清秀	田中秀清
浅野長政	312	21	『新修大津市史』7所収)。	『新修大津市史』3)。
浅野長政	312	35	秀吉書状『愛知織豊2』	秀吉書状写『愛知織豊2』
浅野長政	314	29	御上洛候への御使者	御上洛候への御使者
浅野長政	315	3	上洛した鍋島直茂や立花宗茂の	上洛し秀吉とともに九州入りした鍋島直茂の
浅野長政	315	9	27日夜、	27日夜には長政は、
浅野長政	315	25	同日付小早川隆景宛長政等	同日付安国寺恵瓊・小早川秀包宛長政等
浅野長政	317	7	朱印状写「伊木文書」『豊臣秀吉文書目録』)。	朱印状写『岐阜古代中世1』
浅野長政	317	11	『松浦党有浦文書』	『改訂松浦党有浦文書』
浅野長政	317	25	(「祐清私記」『豊臣秀吉文書目録』)。	(『盛岡市史』戦国期)。
浅野長政	317	32-33	同日付伊達政宗宛長政富田知信連署状 桑折宗長等	同日付伊達政宗宛長政書状・桑折宗長等
浅野長政	318	14	5月20日には	5月21日には
浅野長政	318	17	長政は城を請け取った(6月日付秀吉定書『埼玉6』)。	長政は城請け取りについての条目を出している(6月日付長政等連署条目『埼玉6』)。
浅野長政	318	28	1月17日京都在(『多聞院』)。20日	1月20日
浅野長政	318	29	候間」片倉景綱宛	候間」・片倉景綱宛
浅野長政	318	34	伊達政宗宛長政書状写「去	伊達政宗宛長政書状「去
浅野長政	318	35	「拙者儀奥関東仕置	「拙者茂奥関東仕置
浅野長政	319	1	25日付徳川家康宛長政書状写	25日付長政宛徳川家康書状写
浅野長政	319	5	長政判物「富岡文書……」)。20日岩村在	長政判物写「富岡文書……」)。21日岩村在
浅野長政	319	6-7	24日岩村在カ(同日付長政宛伊達政宗書状「于今其表二御在陣之由」『浅野』)。	削除
浅野長政	319	8	26日関東筋在(『家忠』)。	削除
浅野長政	319	10	表之儀何共	表之儀、何共
浅野長政	319	17	古河(「太祖公濟美録」)。	古河、27日仲善在、28~30日田郷在(「太祖公濟美録」)。
浅野長政	319	18	同日付伊達政宗宛長政書状	同日付長政宛秀吉朱印状
浅野長政	319	26	10月5日(大森着)。	10月5日頃(大森着)。
浅野長政	319	27	(同日付蒲生郷成	(10日付蒲生郷成
浅野長政	319	31	伊達政宗書状『伊達』)。	伊達政宗書状『政宗1』)。
浅野長政	319	32	25日二本松……『伊達』)。	削除
浅野長政	320	16-17	21日二本松在(同日付伊達政宗宛長政書状『伊達』)。	削除
浅野長政	320	19-20	12日二本松在(同日付長政宛伊達政宗書状『伊達』)。	削除

人物	頁	行	初版	第2版
浅野長政	320	23	(『伊達』)。5月18日……『青森近世1』)。20日	(『伊達』)。5月20日
浅野長政	320	24	二本松在(同日付湯目景康宛後藤信政	二本松在カ(同日付湯目景康宛後藤信政
浅野長政	320	29	『青森近世1』)。17日	……『青森近世1』)。15日二本松在(同日付伊達政宗宛長政書状『伊達』)。17日
浅野長政	320	31	(同日付伊達政宗宛長政書状	(15日付伊達政宗宛長政書状
浅野長政	320	32	5日二本松在(同日	5日二本松在カ(同日
浅野長政	321	7	(10月7日付	(7日付
浅野長政	321	28	4月24日の秀吉の	4月24日に行われた秀吉の
浅野長政	322	27	(同日付毛利輝元等宛	(同日付長政等宛
浅野長政	322	28	21日葦山在(同日	21日葦山在カ(同日
浅野長政	322	34	23日伏見在(『駒井』)。	23日伏見在(『駒井』22日条)。
浅野長政	323	1	12月7日京都在(『言経』)。	12月7日京都在(『駒井』)。
浅野長政	323	23-24	5月中は3日付の……(『島津』)、19日には	5月19日には
浅野長政	323	26	聚楽第を(『駒井』)、28日には	聚楽第を、28日には
浅野長政	323	27	7月28日には	7月30日には
浅野長政	324	9	考えられる。2月21日、	考えられる(同日付立花宗茂宛長政書状『福岡柳川上』)。2月21日、
浅野長政	324	14	22日、山中長俊とともに	22日、木下吉隆とともに
浅野長政	325	9	秋田実季書状『青森近世1』)、	秋田実季書状案『青森近世1』)、
浅野長政	325	22	13日には伊達政宗より、木下勝俊家人との	13日以降には伊達政宗より、13日におきた木下勝俊家人との
浅野長政	325	28	長政宛伊達政宗書状写	長政宛伊達政宗書状案
浅野長政	326	24	7月1日・7日、	7月7日、
浅野長政	326	25	対し、帰朝の指示をしている	対し、秀吉の病状回復を伝えている
浅野長政	326	32	長政等書状『島津』)。	長政等書状案『島津』)。
浅野長政	326	33-34	朝鮮在陣衆帰朝と旧小早川秀秋領の所務のため、	削除
浅野長政	327	7	14日には……宛てて筑前の算用について申し送り	14日には……宛てて算用(筑前についてか)について申し送り
浅野長政	327	8	15日には神谷宗湛の	15日には毛利秀元の宿所を訪ね、神谷宗湛の
浅野長政	327	11	名島で再び神谷宗湛の振舞いを受けている	名島で神谷宗湛と茶席をともにしている
浅野長政	327	19-20	(『言経』)。	(『言経』4日条)。
浅野長政	329	15	(7日付伊藤九次郎宛浅野	(5月7日付伊藤九次郎宛浅野
浅野長政	330	3	28日に妻長生院	28日頃に妻長生院
浅野長政	330	3-4	長政は、29日近江土山で幸長に見送りを	長政は、近江土山で幸長の見送りを
浅野長政	330	7-8	「清光公済美録」	『浅野』
浅野長政	330	16	駿府で家康から暇を与えられたことを、	駿府で家康から暇を与えられ、茶器を拝領したことを、
浅野長政	331		典拠の追加	【自治体史】『岐阜古代中世1』

人物	頁	行	初版	第2版
福島正則	333	14	慶長13年閏8月	13年閏8月
福島正則	342		笠谷和比古『関ヶ原合戦と近世の国制』(吉川弘文館 2000年)	笠谷和比古『関ヶ原合戦と近世の国制』(思文閣出版 2000年)
片桐且元	345	4	入寺す。	至る。
片桐且元	349	26-27	北野殿御造営目録を見に大工をまいらす	北野殿御造営目録を見るため大工を遣わす
片桐且元	350	15	8月1日、松梅院禅昌、今朝且元へ	8月1日朝、松梅院禅昌、且元へ
片桐且元	353	8	同24日、大仏中井大和守	同24日、大仏の中井大和守
片桐且元	353	23	勤めるよう折紙来たる。	勤めるよう命ず。
片桐且元	353	26	大仏へ普請見廻に越さる。	大仏普請を見廻う。
片桐且元	354	12	且元正息采女	且元息采女
片桐且元	354	17	駿府の崇伝、且元貞隆への	駿府の崇伝、貞隆への
片桐且元	354	31	大仏見廻のため来られる。	大仏見廻のために来られ、
片桐且元	356	20	に呼ぶ(『時慶』)。	に招く(『時慶』)。
片桐且元	356	35	大仏殿の金鑄あり。	大仏殿の鐘鑄あり。
片桐且元	359	11	茨木へ退出す	茨木へ退去す
片桐且元	359	22	移動を賞す	退去を賞す
片桐且元	360	23	御礼申しあげらる	御礼申しあげる
片桐且元	360	24	病中ではあるが	病中ではあったが
近衛前久	361	7	確定できる。天文9年	確定できる。彼は天文9年
近衛前久	361	14	朝儀を主催するため	朝議を主催するため
近衛前久	361	16-17	下向。以後2年間	下向し、以後2年間
近衛前久	361	18-19	政治を刷新することを	政治状況を刷新することを
近衛前久	361	22	前久の諱で	前久の称で
近衛前久	362	3	わたり、信長包囲網を	わたり、いわゆる信長包囲網を
近衛前久	362	8-9	信長の意を受け、九州の諸大名に和睦を斡旋するためであったとされる。	この前久の薩摩下向については、信長の意を受けて島津氏と伊東氏との和睦を調停するためのものであったとする説のほか、南九州における足利義昭勢力の形成を阻止するためのものであったとする説などがある。
近衛前久	362	15	6月26日に鹿児島を発つ。	6月26日に同地を発つ。
近衛前久	363	19	この年の居所と行動は未詳。	この年の居所は未詳。
近衛前久	362	21	この年の居所と行動は未詳。	この年の居所は未詳。
近衛前久	364	16	この年の居所と行動は未詳であるが、	この年の居所は未詳であるが、
近衛前久	369	4	身を移したという。以後、	身を移したという。また、水野嶺氏により天正元年のものと年代比定される12月24日付足利義昭御内書(小畠国明宛)にも、前久の丹波入国のことが記されている。以後、
近衛前久	369	7-8	9月には信長の意を受け京都を発ち、薩摩へ下向する。同国へは年末に着している。	9月には京都を発ち薩摩へ向い、年末に同国へ着している。

人物	頁	行	初版	第2版
近衛前久	369	9	6月28日京都に入る	6月28日帰洛する
近衛前久	369	10	9月20日	8月には上洛中の島津歳久と面談している(『島津』)。9月20日
近衛前久	371	17	5月4日……。5月16日安土在	5月4日……。16日安土在
近衛前久	372	31	(『兼見』)。	(『兼見』『雅継卿記』)。
近衛前久	372	32	『兼見』『お湯殿』)。	『兼見』『お湯殿』『雅継卿記』)。
近衛前久	374	30	2月8日京都在(『兼見』)。	2月7日洛中→東山。8日京都在(以上『兼見』)。
近衛前久	374	34	1月22日自亭で吉田兼見と対面(『兼見』)。	1月3日吉田社に社参。22日自亭で吉田兼見と対面(以上『兼見』)。
近衛前久	375	3	1月……。26日京都在(『兼見』)。	1月……。25日東山在。26日京都在(以上『兼見』)。
近衛前久	375	4	能を拝見。5月25日	能を拝見。25日
近衛前久	377	2	賜わる(『お湯殿』)。	賜る(『お湯殿』)。
近衛前久	377	27	この年の居所は未詳であるが、	この年の居所と行動は未詳であるが、
近衛前久	378		典拠の追加	【日記】「雅継卿記」 【参考文献】黒嶋敏「織田信長と島津義久」(『日本歴史』741、2010年)水野嶺「國學院大學図書館所蔵「足利義昭御内書」」(『国史学』215 2015年)
近衛信尹	379	4	御中和門院は同母妹である。	御中和門院は信尹の同母妹である。
近衛信尹	379	9	信尹は父とともに参内	信尹は父とともに参内
近衛信尹	379	23	慶長5年としており未詳である。	慶長5年としており、未詳である。
近衛信尹	380	10	面目を失した	面目を失った
近衛信尹	381	23	(若江郡)に出かけた	(若江郡)へ遊山に出かけた
近衛信尹	381	30	滅亡して織田信長包囲網が	滅亡していわゆる織田信長包囲網が
近衛信尹	383	12	8月……。8月17日京都在。	8月……。17日京都在。
近衛信尹	384	10	(『お湯殿』)。11日京都在(『兼見』)。22日	(『お湯殿』)。9日自亭にて茶会(「雅継卿記」)。11日京都在(『兼見』)。21日京都在(「雅継卿記」)。22日
近衛信尹	384	22-23	14日～16日	14日・15日
近衛信尹	384	23	(以上『時慶』)。20日……。和歌会(『時慶』)	(以上『時慶』)。16日京都在(『時慶』『雅継卿記』)。20日……。和歌会(「雅継卿記』『時慶』)
近衛信尹	384	26	4日・8日	4日京都在(『時慶』)。7日清水寺にて和歌会・酒宴を催した後、聚楽第に場を移し能見物(「雅継卿記」)。8日
近衛信尹	387	11-12	1月26日の……。があり1月30日に	1月26日の……。があり30日に
近衛信尹	389	3-4	3～4行目のあいだに挿入	薩摩にいる。この年、坊津から鹿児島へ転居する。
近衛信尹	393	33	後見するため	後見を勤めるため
近衛信尹	396	35	物を賜わる	物を賜る
近衛信尹	403		典拠の追加	【日記】「雅継卿記」
大政所	416	6	中島郡中々村の	中島郡中村の



人物	頁	行	初版	第2版
大政所	416	7	中々村へ	中村へ
大政所	416	16	長命をたもち、	長寿をたもち、
大政所	419	2	に活用される	に利用される
大政所	420	27	(「京都大学古文書室所蔵文書」)	(「京都大学総合博物館所蔵文書」)
北政所(高台院)	423	33	高台寺を建立し、秀吉菩提を吊った	高台寺を建立し、ここで隠棲し秀吉菩提を吊った
北政所(高台院)	425	18-19	北政所輿100丁斗、乗物200疋斗あり(『時慶』『言経』)。	北政所輿200丁斗程あり(『時慶』)。
北政所(高台院)	427	35	別編』)。12月4日、	別編』)。11月2日、秀吉とともに大仏を見物(『華頂要略』)。12月4日、
北政所(高台院)	428	24	北政所より入峰最花として銀20両	北政所より銀20両
北政所(高台院)	428	33	盃あらいあり。	盃あらいあり、
北政所(高台院)	428	34	「政所様御愛」とある	「政所様御愛」により仲裁された
北政所(高台院)	431	30	(以上『時慶』)。	(以上『時慶』)。この月、東福寺仏殿を再興す(『東福寺誌』)。
北政所(高台院)	432	24	しまし候」(同日付	しまし候」と、北政所へ高台院号の勅許あり(同日付
北政所(高台院)	434	14	秀頼へ御使いあり……高台院	秀頼へ御使あり……高台院
北政所(高台院)	438	2	鳥羽まで出向くも	鳥羽(京都市)まで出向くも
北政所(高台院)	438	26	(媾和)	(講和)
北政所(高台院)	442		典拠の追加	桑田忠親『戦国おんな史談』(潮出版社 1981年)
浅井茶々	446	18	この頃までには大坂に戻り、二の丸を居所として秀頼出産の日を まった。	この頃までに大坂に戻った茶々は、二の丸を居所とすることが決定したものと見られる。
浅井茶々	446	26	戻ったものとしておく。	戻った。なお、簾中とは摂関家・清華家の正妻の尊称である。これを京極龍とする説もあるが、龍が正妻の格付となるのは名護屋から帰陣後に大坂城西の丸に、独立した御殿を与えられてからとみなされるので、これはすでに妻の格式を与えられている茶々と考えるのが妥当である。したがって、茶々の名護屋在陣が確定する。
浅井茶々	447		典拠の追加	【参考文献】西島太郎「京極忠高の出生——侍女於崎の解任をめぐる高次・初・マリア・龍子——」(『松江藩の基礎的研究』岩田書院 2015年 初出2011年) 福田千鶴『豊臣秀頼』(吉川弘文館 2014年)



人物	頁	行	初版	第2版
孝蔵主	448	22-23	寺院であり、孝蔵主の母親が葬られている(『東福寺誌』)。	寺院である。なお、『東福寺誌』では、彼女の名を仁叔玄孝尼としているが典拠は示されていない。
孝蔵主	449	6	ガスパル・コエリュ(Gaspar Coelho)	ガスパル・コエリヨ(Coelho, Gaspar S.J.)
孝蔵主	449	9	(Luis Frois)	(Fróis, Luís S.J.)
孝蔵主	449	12	天正より	天正10年代より
孝蔵主	450	6	「けにいとまこい候」……	<前行へおいこむ>
孝蔵主	451	27	ガスパル・コエリュ	ガスパル・コエリヨ
孝蔵主	453	13-14	世話をする者として北政所や淀殿はともに名護屋へ下向できなかったことは注意すべきであろう。	世話をする者として淀殿は名護屋へ下向したが、北政所は下向していない。
孝蔵主	454	24	言及しておきたい。	言及しておきたい(下線筆者)。
孝蔵主	455	8	饗場局	饗庭局
孝蔵主	455	28-29	祝儀を贈り、12月24日には……(以上『兼見』)。	祝儀を贈る。(以上『兼見』)。10月、東福寺の偃月橋を架け替る(『東福寺誌』)。12月24日には……(『兼見』)。